

中国における日本語教育と日本語教材の編成及び使用について

李 培建*

1. はじめに
2. 中国における外国語教育の半世紀の回顧
3. 新しい時代に適応する日本語専門の養成目標と教育課程
4. 日本語教材の編成と使用
5. おわりに

1. はじめに

二十世紀から二十一世紀へ移行する過程の中で、言語教育は大きく変わろうとしている。従来は国境や言語の境界線が言語の教育のあり方により決定的な条件となっていたものが、見事に境界線が崩れ始め、言語によるコミュニケーションができ、その言語の普及がその国だけの利益につながるものではなく、各国の相互の人々にとって役に立つものだという相互交流尊重の国際交流の形に近づき始め、ますます言語教育が重視されているということである¹⁾。

現在、各分野における大きな発展を遂げている中国において、経済の発展についての認識はもちろん、たとえば中国のパワーや発展振りなどが世の中で有識者に認められるようになってきている。もし経済の発展がなければ、国が立ち遅れるし、強い国に尻を叩かれるこ

とに、官民とともに一致している意見を持つようになっている。その一方で、この経済などに関する交流を拡大させるには、国と国とのコミュニケーションがなければならないことにも異議を唱えるものがないことである。それに、この相互交流を如何に維持発展させるかということに関して、言葉という掛け橋が大きな役割を果たしていることをつくづく感じさせられている。従って、ますます外国語教育を重視する傾向が強くなっている。今中国の大学において（外国語大学や小、中、高校の日本語教育を除いて）日本語教育を施す大学がないというほど、日本語学科を設けて、日本語教育を行っている²⁾。というのは、六十年代後半から、日本で経済高度成長時代を迎えてきた。そのすばらしい発展振りは中国に大きな影響を与えたわけである。世界は日本に学ぶことから、中国も日本に学ぶべきだという考えを持つ人が増えつつあるからである。今もその日本語を生かして、日本人と交流する人が増える一方である。この背景をもとに、この拙文を書くことにした。中国における日本語教科書の編成と使用、それに日本語教育について触れて見たいと思う。中国の日本語教育事情や教材編集、使用に関して、ここでは中国大陸のことに限って紹介することにする。

*中国：大連外国語学院日本語学科副教授 本学社会システム研究所客員研究員

中国大陸でも大学のほかに、小、中、高校の生徒と社会人に対する日本語教育が盛んに行われているが、私は大学を中心に考えていこうと思う。ただ、大学の日本語教育に専門教育と一般教育という区別がある。専門教育とは専門学科のことであるが、一般教育とは大学の一般の学科における教育のことであり、「公共日語教育」と称する。

中国では、高等教育機関における日本語専攻の学科を「日本語専業」または「日本語学科」という。「日本語専業」または「日本語学科」は、普通、「日本語言語文学を専攻する学科」または「日本語言語文化を専攻する学科」とのことを意味する。但し、現実に「国際貿易日本語学科」、「科学技術日本語学科」、「計算機日本語学科」、「観光日本語学科」、「メディア日本語学科」などもあり、これらも普通一律に「日本語専業」または「日本語学科」と言う。

一九八〇年代に入ってから、「日本語専業」または「日本語学科」を昇格させて「日本語学部」にした大学が多くある。但し、その多くは専攻が増えたわけではなく、大学における地位が上がったことを意味する。九十年代に入って、各大学では「学部」を大学の下位機構に「学院」を設けるようになった。従って、今の中国の大学においては、「日本語学院」、「日本語学部」、「日本語専業」または「日本語学科」などの機構がある。当然どちらも日本語が主専攻であることに変わりがないという。

また、中国では高等専門教育機関として四年制の大学を除いて、三年制または二年制の高等専門学校、高等職業学校、これと同資格の夜間大学、社会人教育大学などがある。これらの高等教育機関は必ず国家教育部または地方教育局の承認を得る公立教育機構である。国家教育部または地方教育局の承認がな

ければ、学生の学歴が認められないことになっている³⁾。

2. 中国における外国語教育の半世紀の回顧

これまでの半世紀あまりの中国の大学における日本語専門教育の歴史は大体三つの段階に分けることができる。

2-1 旧ソ連の影響下にある外国語教育

一九四九年十月に、中国では蒋介石の国民党政権が台湾に逃げ、共産党政権が誕生した。当時、旧ソ連政府は中国共産党の政府に対して多くの援助をおこなったので、中華人民共和国が成立してから、特殊関係に結ばれており、それに両国はイデオロギ面においても、共通したものが多いので、中国は何もかも旧ソ連に学ぶことになったというわけである。各分野における交流を始めるには、言葉がなければならぬので、従ってソ連人のことを兄貴と呼ぶ中国人の間では、ロシア語の勉強が流行してきた。学校でロシア語を学ぶか、政府派遣でロシアに留学することは一つのブームとなっていた。当時ロシア語を身につけることにより、出世するケースがよくあった。これが原因で、中国の小学校から大学まで第一外国語の教育がロシア語で、そして普及してきた。100%と言えるほどに中国でロシア語教育を施すことに対して、日本語専門教育は五十年代から六十年代まで規模が小さく、情報獲得のために日本語資料を読解、翻訳する人材を養成するのが目的であった。日本語学科は北京大学の東方言言語学部と張家口軍事外国語大学外国語部に設けてあった。そのときのカリキュラムは主に精読や文法教育を中心とする内容であった。そして、教室ではほとんど「読む、書く、訳す」

などの訓練を中心にして施されていた。従って、当時の学生は文法の基礎知識をしっかり身につけ、日本語資料の読解力が強く、文章表現力も強かった⁴⁾。但し、知識面が狭くて、聞く・話す能力も弱かったため、コミュニケーションが弱いと言われてきた。それに対して、一九六四年に大連日本語専門学校（現大連外国語大学の前身）が創設され、日本人の教師を中心とする日本語教育が始まり、主に「聞く・話す」などの訓練に力を入れた。学生の聞く能力と話す能力が徐々にのびるようになった。但し、文章表現力、読解力に弱かった。しかし、これらの問題点を抱えて、解決に手を入れようとする時に、一九六六年から「プロレタリア文化大革命」が始まり、それにイデオロギによる中ソ間の政治の食い違いをめぐって論争が行われ、領土紛争にまで悪化した。そこで、一九七七年まで全国の大学で全国統一入試による学生募集が中止され、大学の日本語教育もストップになっていたという。

2-2 国際情勢に応じた日本語教育

一九七〇年に中国政府のリーダーたちは、世の中の動きを考慮して、旧ソ連とだけの関係維持によるつらさをつくづく感じさせられ、バランスが取れるように、欧米や日本などの国々に目を向けるようになった。従って、外国語がわかる人材が要ると考えて、同じ年に大連外国語学院（当時は遼寧外国語専科学校と称す）と清華大学に学生を募集するようにさせた。そして、両校はそれぞれ三百名募集したという。その後、一九七二年から一九七六年まで労農兵分子を中心とする学生募集も軌道に乗った。

一九七一年に国連における中国の代表権が回復され、一九七二年に中日両国間に外交関係が樹立され、それ以来中日両国間の各分野

にわたる直接交流が日増しに頻繁に行われてきたので、言語による交際技能、とりわけ会話能力が重視されるようになった。この時期から「聞く、話す、読む、書く、訳す」という言語交際の技能を全面的に身につけることが外国語人材の必要条件として強調され、そして「聞く、話す」の教授法が広範に採用されていった。教師も帰国華僑、日本人残留孤児、旧植民地の旧大学、旧高校の卒業生が多く採用され、それに日本人教師を毎年募集するようになっていた。その後、大学を卒業した優秀な人材は教師になってきた。「聞く、話す」は重視されているので、教育カリキュラムが大きく調整され、ヒヤリングや会話の授業がかなりの時間数を占め、精読授業のなかにも会話の内容が大量に盛り込まれた。というわけで、学生の聞く、話す能力が伸びつつ、社会の需要に対する適応性が高められた。七十年代から八十年代までの日本語教育は語学教育の角度から見れば、五十年代から六十年代までの日本語教育に比べて明らかに大きく進歩を遂げたものであり、外国語教育の一般的なルールに適合し、学生の語学能力のバランスが取れ、国際交流への適応性が改善されたものである⁵⁾。但し、これらの時期の日本語教育は、やはり不十分なところがあり、ただ語学教育に限っているので、教育課程による知識面が狭くなり、日本に対する深い理解、交流または研究のための人材養成を目指す教育システムがまだまだ完成していなかった。七十年代からの日本語教育を振り返って見れば、この日本語専門教育は大いに不足していた通訳人材または日本語教師の養成が急務となったのであ⁶⁾。

2-3 経済発展に応じた日本語教育

七十年代の末から改革開放政策を施されて以来、中国は世界各国、とりわけ隣国の日本

との間で科学文化、経済貿易各分野にわたる交流が一段と頻繁になりつつあった。市場の需要があれば、日本語教育の発展があるということ、中国全土において、「日本語ブーム」が沸き起こった。特に、八十年代中期以後、中日両国の貿易量が大幅に増長し、中国大陸に進出する日本企業の数が増し、中国の各地に日本企業の現地駐在事務所、中日合併企業、日本独自の資本企業がまさに雨後の竹の子のように現れた。このような時代の流れに左右されて、日本語が分かる人材の不足が更に深刻になりつつあり、学生の就職先と仕事の内容も大きく変化した。八十年代初期までは就職先は主として旅行、国際貿易、政府対外事務、教育機関であり、仕事の内容は殆ど通訳と教育機関の教師であった。八十年代以後は日本語人材の需要には、就職先から見れば中国の経済、貿易、金融、産業の諸分野が含まれると、中日合併企業、日本独資企業の求人がいっそう緊迫した状態である。それに仕事の内容から見れば、もう単純に通訳をするのではなくて、日本に対してより幅広い知識とより深い理解を持ち、国際関係、国際貿易、国際金融、企業経営などの基礎知識を持ち、独自の事務処理ができる人材が求められるようになってきた⁷⁾。というのが原因で、日本語人材の知識構造はすでに強い語学力だけでは社会の需要に間に合わなくなった。こうした状況の中では、大学の日本語専門教育に重点を置くことになった。日本語学科を設ける大学は七十年代の十数校から八十年代末の六十校近く増え、一九九八年では百二十校を超えるようになった。学校教育の内容も社会の需要に応じて授業の内容を充実させ、学生の知識構造を改善するために工夫を凝らしてきた。教育課程の編成をめぐって、各大学では共通教養科目の知識構造の改善を図ると同時に、日本語専門教育科目の中

でも、従来の語学訓練のほかに文学、歴史、社会、政治、経済、風俗習慣などの日本の文化に関する科目を設けるようになった。こうした結果、学生の教養知識と専門知識の構造が改善され、そして日本に関する知識面を拡大し、日本語の語学力も上達し、社会の需要に対する適応性が更に高まってきた。そのために、教師の増加、充実、教材の研究開発、教育手段の改善が必要であるばかりでなく、講義時間数も増えてきた。それと同時に学生の勉強の負担が重くなることも事実である。

九十年代に入って、日本語教育がいっそう盛り上がった中国東北、華北地方では日本語人材の不足状態が緩和され、徐々に飽和状態になってきた。それに、山東地方、華東、華北、華南地方などでも各大学日本語学科の継続設立によって、ここ数年来の日本語人材の不足状態が大分緩和されている。現在、中国のどこにおいても、日本語人材に対する求人需要は、まだ好調と言える。それに日本に留学して、各専攻を学んで帰国し、日本語の堪能な人材も増える一方である。それにしても、日本語人材の知識構造に対して、しっかりした語学力と充実した素養知識及び実用的専門知識を求めようになっている。日本語を専攻した学生も卒業後の進路の多様化を目指して各大学の日本語学科の教育課程の充実、多様化、実用化を求めようになっている。この社会の需要に答えるように、各大学の日本語学科としては養成目標を確立し、教育課程の充実と合理化及び教育水準の向上を図っていかなければならないものである⁸⁾。

3. 新しい時代に適応する日本語専門教育の養成目標と教育課程

3-1 養成目標

教育の目的が人材を養成することである。

学科設置の前提条件としては、どんな人間を養成するかという養成目標を確立しなければならない。前に述べたように、中国では八十年代に入ってから、学校側は学生たちがはっきりした目的を持ち、専攻するようになっている措置を取り、その学生たちを励ましてやってきた。そして立派な学生を養成するために奨学金制度を設けることになっている。日本語人材の需要は語学力だけではなくて、日本に対して、より幅広い知識とより深い理解を持ち、しっかりした素養知識や実用的専門知識を持つ人材を求められている。この新しい時代の社会のニーズにかなうように、多くの大学の日本語学科の養成目標は従来の通訳や教師だけではなくて、多様化した社会の需要に応える人材の養成に重点をおかれつつある。このような人材養成のポイントはどこにあるかと言えば、はっきりした目標を立てられなくて今でも模索中であるが、ほとんどの大学では日本語学科は文化知識の充実化に重点を置くことに同じ考えを持っている。一九九六年に大連外国語学院と中国日本語教育学会の主催で「日本語教育と日本文化・国際シンポジウム」が開催され、次の議題について：

- ① 言語と文化がどんな関係にあるか
- ② 日本語教育において言語と文化の教育をどう結びつけるか
- ③ 日本語教育の目標は何であるか

を議題として、討議が展開された。続いて、一九九七年に上海外国語大学の主催で「大学日本語専門教育・国際シンポジウム」が開かれ、各大学の日本語教育現状を話し合うと同時に、日本語人材の養成目標と日本語学科の発展方向に重点を置いて討議が行われた。この国際シンポジウムにおいて、各大学の日本語学科の責任者は日本語人材養成の目標についてそれぞれの大学の教育のあり方または個

人見解を発表した。次に一部分の大学の日本語人材養成目標の内容を紹介しておく。

大連外国語学院——社会の需要に適應する高い水準の国際型、複合型、応用型の外国語人材を養成する。国際型人材とは

- ① 優れた外国語能力
- ② 多国文化の知識能力
- ③ しっかりした中国文化教養
- ④ 必要な全科知識（専攻関連の知識のみならず自然科学、人文科学の知識）
- ⑤ 豊かな国際的意識を持つ国際型である。

遼寧師範大学——しっかりした日本語基礎、強い実践能力、ある程度の語学的理論知識と文化知識をもち、適應性のある、教養レベルの高い日本語人材を養成する。学生としては日本語だけでなく、自国の文化、歴史、哲学などについても深い理解力を持つべきである。

上海外国語大学——養成目標としては、学生は「聞く、話す、読む、書く、訳す」の能力が高いレベルに達し、語学の基礎的理論知識をマスターし、日本事情と中日関係の歴史と現状をよく理解し、これを生かして日本語の実用の能力を持ち、対外的業務の水準に対応できる日本語人材になることである。

北京外国語大学——教育目的は外交、対外貿易、国際文化交流及び新聞、出版、外国語教育、外国問題の研究などに適應する人材を養成する。学生としては、日本語の言語、文学のしっかりした基本知識を身につけ、「聞く、話す、読む、書く、訳す」の能力を持つべきである。それに日本の社会、歴史、文化、外交及び政治、経済に関する知識を持つべきである⁹⁾。

以上の各大学の日本語教育養成目標から見れば、ほとんどしっかりした日本語能力の訓練と文化知識の充実に重きが置かれることで意見が一致している。しかし、強調される文

化の理念はとても広いもので、日本の文化、歴史、社会、政治、哲学、芸術、風俗習慣などだけでなく、中には自国の中国文化及び多国文化なども含まれている。要するに、多様化する外国語人材の需要に適應する外国語能力と文化知識を持つ人材を養成するかということについて、学校側は学校經營の理念と目標を持って研究され、いつまでも念頭に置かなければならない。これも今後の日本語教育の養成目標であり、日本語教育を進めていく方向であろう。

3-2 教育プログラム

教育養成目標を実現させるには教育プログラムの編成と有効な措置がなければならない。中国の大学の日本語教育は常に時代の需要に応じて改革を施す。それと同時に、養成目標に従って教育プログラムと教育内容を調整してきた。しかし今後の国際社会、中国社

会がどんなに変わっても、日本語人材の養成目標は五十年、六十年代の翻訳人材、七十年代の通訳人材と言うような単純な教育の目標に戻ることはないし、教育内容は八十年代以前の語学専攻だけの形式に戻ることはないと思う。前にも述べたように、社会の需要に適應する高いレベルのある国際型、複合型、応用型と多様化する日本語人材の需要に応じてしっかりした日本語能力と充実した文化知識を持つ人材の養成が今後の養成目標であり、そして各大学ではこの目標を目指して、教育プログラムに取り組んできた。次に表により大連外国語学院の日本語教育に関する教育プログラムを中心に紹介する。

大連外国語学院では一九九五年から単位制導入した。計算機、国際貿易、観光、法学、営業管理を含む日本語言語文学学科の卒業必要単位は169単位である。次に、その教育プログラムを紹介する。

日本語専門（言語文化傾向）指導性計画

課程種類	課程番号	課程名称	各学期周時間数								時間数	単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8			
公共必修課	040101	毛沢東思想概論	3	3*								54	3
	040102	マルクス主義哲学原理			3							54	3
	040103	マルクス主義政治経済学原理				2						36	2
	040104	鄧小平理論概論					4					72	4
	040105	当代世界経済と政治							2			36	2
	040201	法律基礎						2				36	2
	040202	大学生思想道德修養	2									24	1.5
	040203	外事職業道德									2	28	1.5
	040401	体育	別件で説明									7	
	040301-2	大学国語 1-2		4	4							144	8
	040601	計算機基礎と応用 1	2									28	1.5
	040602	計算機基礎と応用 2		2								36	2
	040603	計算機基礎と応用 3			3							54	3
	計	9	8	12	4	4	2	2	2		602	40.5	
公共選修課												6	
専門必修課	140101	基礎日本語 1	8	8								256	14
	140102	基礎日本語 2			8	8						288	16
	140201	日本語精読 1					4					72	4
	140202	日本語精読 2						4				72	4

日本語専門（言語文化傾向）指導性計画

課程種類	課程番号	課程名称	各学期周時間数								時間数	単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8			
公共必修課	040101	毛沢東思想概論	3	3*								54	3
	040102	マルクス主義哲学原理			3							54	3
	040103	マルクス主義政治経済学原理				2						36	2
	040104	鄧小平理論概論					4					72	4
	040105	当代世界経済と政治							2			36	2
	040201	法律基礎						2				36	2
	040202	大学生思想道德修養	2									24	1.5
	040203	外事職業道德								2		28	1.5
	040401	体育	別件で説明									7	
	040301-2	大学国語 1-2		4	4							144	8
	040601	計算機基礎と応用 1	2									28	1.5
	040602	計算機基礎と応用 2		2								36	2
	040603	計算機基礎と応用 3			3							54	3
	計	9	8	12	4	4	2	2	2	2	602	40.5	
公共選修課												6	
専門必修課	140101	基礎日本語 1	8	8								256	14
	140102	基礎日本語 2			8	8						288	16
	140201	日本語精読 1					4					72	4
	140202	日本語精読 2						4				72	4
	140203	日本語精読 3							4			72	4
	140204	日本語精読 4								4		56	3
	140401	日本語視聴 1	4	4								128	5
	140402	日本語視聴 2			4	4						144	6
	140403	日本語視聴 3					2					36	1.5
	140404	日本語視聴 4						2				36	1.5
	140405	日本語会話 1		2								36	1.5
	140406	日本語会話 2			2	2						72	3.5
	140501	日訳中 1					2					36	2
	140502	日訳中 2						2				36	2
	140503	中訳日 1							2			36	2
	140504	中訳日 2								2		28	1
	140505	同声通訳 1							4			72	4
	140506	同声通訳 2								2		28	1
	140701	日本文学								2		36	2
	140601	日本語作文 1					2					36	2
140602	日本語作文 2						2				36	2	
140804	日本語概論								2		36	2	
	計	12	14	14	14	10	10	14	8	14	1648	84	
限定選修課	140901	西方経済学					3					36	2
	040502	国際貿易						2					
	140801	国際貿易実務								3		36	2
	140802	日本経済					2					36	2
	140803	世界経済概論						2				36	2

日本語専門（計算機傾向）指導性計画（続）

課程種類	課程番号	課程名称	各学期周時間数								時間数	単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8			
専門必修課	140101	基礎日本語 1	8	8								256	14
	140102	基礎日本語 2			8	8						288	16
	140201	日本語精読 1					4					72	4
	140202	日本語精読 2						4				72	4
	140203	日本語精読 3							4			72	4
	140204	日本語精読 4								4		56	3
	140401	日本語視聴 1	4	4								128	5
	140402	日本語視聴 2			4	4						144	6
	140403	日本語視聴 3					2					36	1.5
	140404	日本語視聴 4						2				36	1.5
	140405	日本語会話 1		2								36	1.5
	140406	日本語会話 2			2	2						72	3.5
	140501	日訳中 1					2					36	2
	140502	日訳中 2						2				36	2
	140503	中訳日 1							2			36	2
	140504	中訳日 2								2		28	1
	140505	同声通訳 1							4			72	4
	140506	同声通訳 2								2		28	1
	140701	日本文学							2			36	2
	140601	日本語作文 1					2					36	2
	140602	日本語作文 2						2				36	2
140804	日本語概論							2			36	2	
	計		12	14	14	14	10	10	14	8	1648	84	
限定選修課	140901	西方経済学					3				36	2	
	040502	国際貿易						2					
	140801	国際貿易実務								3	36	2	
	140802	日本経済				2					36	2	
	140803	世界経済概論						2			36	2	
	140302	日本商学概論							2		36	2	
		第二外国語 1	4								56	3	
		第二外国語 2		4							72	4	
		第二外国語 3			4						72	4	
		第二外国語 4				4					72	4	
	計算機傾向課程は別件で説明												
	計		4	4	4	4	5	4	2	5	540	28.5	
専門任選課	140301	日本語泛読			2						36	1.5	
	140703	日本古典文学							2		36	1.5	
	140902	日本概況				2					36	1.5	
	140903	日本地理			2						36	1.5	
	140904	日本歴史				2					36	1.5	
	141202	商業手紙								2	28	1.5	
	140905	現代日本語文法						2			36	1.5	

日本語専門（計算機傾向）指導性計画（続）

課程種類	課程番号	課程名称	各学期周時間数								時間数	単位
			1	2	3	4	5	6	7	8		
専門 任選課	141201	日本文化							2		36	1.5
	141205	日本語文法研究						2			36	1.5
	141208	日本文学史							2		36	1.5
	140906	古典文法							2		36	1.5
計												4.5
実践 性教学 段取り	卒業論文	第八学期										3
	社会実践	第八学期										3

日本語専門（法学傾向）指導性計画

課程種類	課程番号	課程名称	各学期周時間数								時間数	単位
			1	2	3	4	5	6	7	8		
公共 必修課	040101	毛沢東思想概論	3	3*							54	3
	040102	マルクス主義哲学原理			3						54	3
	040103	マルクス主義政治経済学原理				2					36	2
	040104	鄧小平理論概論					4				72	4
	040105	当代世界経済と政治							2		36	2
	040201	法律基礎						2			36	2
	040202	大学生思想道德修養	2								24	1.5
	040203	外事職業道德								2	28	1.5
	040401	体育	別件で説明									7
	040301-2	大学国語 1-2		4	4						144	8
	040601	計算機基礎と応用 1	2								28	1.5
	040602	計算機基礎と応用 2		2							36	2
	040603	計算機基礎と応用 3			3						54	3
計			9	8	12	4	4	2	2	2	602	40.5
公共選修												6
専門 必修課	140101	基礎日本語 1	8	8							256	14
	140102	基礎日本語 2			8	8					288	16
	140201	日本語精読 1					4				72	4
	140202	日本語精読 2						4			72	4
	140203	日本語精読 3							4		72	4
	140204	日本語精読 4								4	56	3
	140401	日本語視聴 1	4	4							128	5
	140402	日本語視聴 2			4	4					144	6
	140403	日本語視聴 3					2				36	1.5
	140404	日本語視聴 4						2			36	1.5
	140405	日本語会話 1		2							36	1.5
	140406	日本語会話 2			2	2					72	3.5
	140501	日訳中 1					2				36	2
	140502	日訳中 2						2			36	2

日本語専門（国際商務傾向）指導性計画

課程種類	課程番号	課程名称	各学期周時間数								時間数	単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8			
公共必修課	040101	毛沢東思想概論	3	3*								54	3
	040102	マルクス主義哲学原理			3							54	3
	040103	マルクス主義政治経済学原理				2						36	2
	040104	鄧小平理論概論					4					72	4
	040105	当代世界経済と政治							2			36	2
	040201	法律基礎						2				36	2
	040202	大学生思想道德修養	2									24	1.5
	040203	外事職業道德								2		28	1.5
	040401	体育	別件で説明									7	
	040301-2	大学国語 1-2		4	4							144	8
	040601	計算機基礎と応用 1	2									28	1.5
	040602	計算機基礎と応用 2		2								36	2
	040603	計算機基礎と応用 3			3							54	3
		計	9	8	12	4	4	2	2	2	2	602	40.5
公共選修課												6	
専門必修課	140101	基礎日本語 1	8	8								256	14
	140102	基礎日本語 2			8	8						288	16
	140201	日本語精読 1					4					72	4
	140202	日本語精読 2						4				72	4
	140203	日本語精読 3							4			72	4
	140204	日本語精読 4								4		56	3
	140401	日本語視聴 1	4	4								128	5
	140402	日本語視聴 2			4	4						144	6
	140403	日本語視聴 3					2					36	1.5
	140404	日本語視聴 4						2				36	1.5
	140405	日本語会話 1		2								36	1.5
	140406	日本語会話 2			2	2						72	3.5
	140501	日訳中 1					2					36	2
	140502	日訳中 2						2				36	2
	140503	中訳日 1							2			36	2
	140504	中訳日 2								2		28	1
	140505	同声通訳 1							4			72	4
	140506	同声通訳 2								2		28	1
	140701	日本文学							2			36	2
	140601	日本語作文 1					2					36	2
140602	日本語作文 2						2				36	2	
140804	日本語概論							2			36	2	
	計	12	14	14	14	10	10	14	8	1648	84		

日本語専門（国際商務傾向）指導性計画（続）

課程種類	課程番号	課程名称	各学期週時間数								時間数	単位
			1	2	3	4	5	6	7	8		
限定選修課	140901	高等数学						2			36	2
	140801	統計学					2				36	2
	140802	国際貿易法							2		36	2
	140803	交際貿易					2				36	2
	140302	日本語貿易会話					2				36	2
	140702	日本経済概論						2			36	2
		第二外国語 1	4								56	3
		第二外国語 2		4							72	4
		第二外国語 3			4						72	4
		第二外国語 4				4					72	4
	計		4	4	4	4	6	4	2	488	27	
専門任選課	140301	日本経営管理			2						36	1.5
	140703	日本金融							2		36	1.5
	140902	日本概況				2					36	1.5
	140903	日本地理			2						36	1.5
	140904	日本商法				2					36	1.5
	141202	日本経貿文章抜粋								2	28	1.5
	140905	日本文学史						2			36	1.5
	141301	日本経済					2				36	1.5
	141201	中日比較文化							2		36	1.5
	141206	証券法			2						36	1.5
	140906	演説								2	36	1.5
		計										6
実践性学 段取り	卒業論文	第八学期										3
	社会実践	第八学期										3

リスト提供：大連外国語学院教務処

以上は大連外国語学院の各傾向のある日本語文学学科の教育プログラムである。その中に公共必修科目と選択科目を多数盛り込まれている。そのほか、任意選択科目もある。それは学生が個人の好みに合わせて選択する科目でもある。

3-3 特色のある試み

前に述べたことがあるが、一九八〇年代に中国では改革開放政策を施すに従って、外国語人材の需要が高まり、各分野において外国語人材としては、知識構造の幅が広く、経済、貿易、企業経営などの知識を備え、独自

的に事務処理ができるというような複合的学科の知識を持つ人材が求められるようになってきた。大連外国語学院の事を例にして、このような変わり方いかに適応するかを見てみれば、実は八十年代の初めから外国語教育の新しい道を模索し始めたことはわかるのである。いわゆる「外国語教育の体制を改革し、国際化をめざし、新しいタイプの外国語人材を養成する」と言う改革方針である。この教育方針に基づいて、大連外国語学院は単なる日本語学科の大学から総合文科系の外国語大学に変わりつつある。これを目標として中国の教育部の許可を得て、今までの言語文学

を中心とした単科大学型の外国語学院を総合文科系の外国語大学へ移行するプランを立てた。一九八四年から現在まで、計算機、国際貿易、観光、法学、企業管理、メディアなどの新しい学科が相次いで創設された。その中で日本語法学科は吉林大学の法学部と提携して五年制の言語文化、法学の学生を養成することにより、卒業すれば、同時に言語文化学士と法学士の資格を取ることになる。それに、日本語企業管理学科は大連理工大学の企業管理学部と提携して五年制の言語文化、企業管理の学生を養成することにより、卒業すれば、

同時に言語文化学士と企業管理学士を取ることになる。これは非常にユニークな4+1の試みである。今は卒業した学生は身につけた知識を生かして、大いに活躍し、社会的評価も高いことである。こればかりでなく、また日本の大学と提携して、2+2 (2+3) のシステムを導入している。要するに、中国の大学は2年 (3年) であり、日本の大学は2年であると言う。これらのユニークな試みは卒業の活躍ぶりによって認められるようになっている。それで、その中の特色のある日本語観光科を例にして言語文化学科と比較してみる。

日本語専門 (観光傾向) 指導性計画

課程種類	課程番号	課程名称	各学期周時間数								時間数	単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8			
公共必修課	040101	毛沢東思想概論	3	3*								54	3
	040102	マルクス主義哲学原理			3							54	3
	040103	マルクス主義政治経済学原理				2						36	2
	040104	鄧小平理論概論					4					72	4
	040105	当代世界経済と政治							2			36	2
	040201	法律基礎						2				36	2
	040202	大学生思想道德修養	2									24	1.5
	040203	外事職業道德								2		28	1.5
	040401	体育	別件で説明									7	
	040301-2	大学国語 1-2		4	4							144	8
	040601	計算機基礎と応用 1	2									28	1.5
	040602	計算機基礎と応用 2		2								36	2
	040603	計算機基礎と応用 3			3							54	3
	計	9	8	12	4	4	2	2	2	2	602	40.5	
公共選修課												6	
専門必修課	140101	基礎日本語 1	8	8								256	14
	140102	基礎日本語 2			8	8						288	16
	140201	日本語精読 1					4					72	4
	140202	日本語精読 2						4				72	4
	140203	日本語精読 3							4			72	4
	140204	日本語精読 4								4		56	3
	140401	日本語視聴 1	4	4								128	5
	140402	日本語視聴 2			4	4						144	6
	140403	日本語視聴 3					2					36	1.5
	140404	日本語視聴 4						2				36	1.5
	140405	日本語会話 1		2								36	1.5

日本語専門（観光傾向）指導性計画（続）

課程種類	課程番号	課程名称	各学期周時間数								時間数	単位
			1	2	3	4	5	6	7	8		
専門必修課	140406	日本語会話 2			2	2					72	3.5
	140501	日訳中 1					2				36	2
	140502	日訳中 2						2			36	2
	140503	中訳日 1							2		36	2
	140504	中訳日 2								2	28	1
	140505	同声通訳 1							4		72	4
	140506	同声通訳 2								2	28	1
	140701	日本文学							2		36	2
	140601	日本語作文 1					2				36	2
	140602	日本語作文 2						2			36	2
	140804	日本語概論								2	36	2
		計		12	14	14	14	10	10	14	8	1648
限定選修課	140901	公共関係学						2			36	2
	140801	観光概論					2				36	2
	140802	旅行社経営管理							2		36	2
	140803	観光政策と法律					2				36	2
	140302	ガイド実習					2				36	2
	140702	観光地理						2			36	2
	140902	日本観光業				2					36	2
	140906	日本観光文化								2	36	2
		第二外国語 1	4								56	3
		第二外国語 2		4							72	4
		第二外国語 3			4						72	4
		第二外国語 4				4					72	4
	計	4	4	4	4	6	4	2		488	27	
専門任選課	140301	日本語泛読			2						36	1.5
	140703	日本語読解技能訓練							2		36	1.5
	140902	日本概況				2					36	1.5
	140903	日本地理			2						36	1.5
	140904	日本歴史				2					36	1.5
	141202	日本科学技術文章							2		28	1.5
	140905	日本経済						2			36	1.5
	141301	日本文学史					2				36	1.5
	140501	日本語文法研究							2		36	1.5
	140609	日本古典文法					2					1.5
	140801	世界経済概論				2						1.5
	141501	日本古典文学						2				1.5
	141201	商業手紙							2			1.5
	140906	国際貿易								2	36	1.5
	計										6	
実践性教学 段取り	卒業論文	第八学期										3
	社会実践	第八学期										3

日本語観光科は社会の需要を考へて創設した学科である。この日本語観光学科の卒業生の就職は、年ごと高い求人倍率に恵まれつつあった。就職先が明るいと思われ、中国の大学統一試験に、この日本語観光学科を目標に進学競争が激しいことである。というのは、日本語観光学科の設置または複合型外国語人材の養成は、現在の社会需要に適應したものだと言えらう。

無論、一九九六年と一九九七年にそれぞれ大連外国語大学と上海外国語大学で開かれた「大学日本語専門教育・国際シンポジウム」では、このように複合型学科の設置、養成目標、教育プログラムをめぐって激しい討論が展開された。その後の各種の学会においても賛否両論の対立があった。例えば、学生の負担が重く、教師の充実、知識の転換と教育レベルの向上を図る上で、まだ未熟なところが多く、検討をしなければならないと思われる。

実は、中国の外国語教育における学科の設置と養成目標、教育プログラムなどについて、五十年代の末から六十年代の前半にかけて、各大学は特色のある外国語教育の研究、討論が始まったが、「プロレタリア文化大革命」のため中止したということである。

複合型外国語人材養成の試みは、一九八〇年代に入ってから、社会の発展の需要に応じて実施されたわけである。大連外国語学院の日本語観光専攻学科と似たような学科または専攻は一部分の大学にも設置されている。例えば、上海外国語大学の「日本経済貿易学科」、西安交通大学の「科学技術日本語学科」、大連交通大学の「科学技術・経済貿易日本語」などがある。ほかに理工系大学に新設された日本語学科、私立大学に設置された日本語学科などにおいても、その大学なりの特色を持っている¹⁰⁾と思う。

4. 日本語教材の編成と使用

前に述べてあるように、一九八〇年代に入ってから中国では改革開放政策を導入し始めたので、外国と各分野における交流も盛んになりつつある。その関係で、外国語教育もますます重視されてきた。各大学は新しい情勢に適應するために、その時代の流れにふさわしいユニークな教育方針を立て、外国語人材の養成に取り組んできた。しかし、この目標を達成させるには、ただ良い政策、方針があれば、すべてができるというわけではない。その方針を執行、完成させる教師陣とテキストがなければならぬことをつくづく感じさせられた。大連外国語学院は中国で一番先に創設された外国語大学ではない（一九六四に創設され、同時に大連日本語専門学校と称す。一九七〇年に遼寧外国語専門学校に改称し、一九七八年に大連外国語学院に改称する。）が、日本語教育において、中国で教師陣の人数が多く、影響力が大きく、リーダーシップをもつといわれている。したがって、各大学の日本語教育者は常に大連外国語学院の教育方針、あり方からテキストまでを参考にして、日本語教育を施したとおもわれる。ここで大連外国語学院を例に、日本語教科書の編成と使用を考えてみる。

4-1 政治の影響下にある日本語教材の編成

中華人民共和国は一九四九年に創立されてから、政治に影響される道を歩んできたと言える。その右傾、または左傾という傾向に左右され、日本語教科書の編成にも大きな影響を与えたことである。大連外国語学院は一九六四年に創設された。その同時に、イデオロギにおいて、日本共産党（宮本顕志時代）と同じ考えを持つところが多いので、日

本共産党の援助を受けて、派遣されてきた日本人教師を中心に、日本語教科書の編成と日本語教育を始めた。日本語教科書の内容は同で中国共産党と日本共産党との共通の敵であるアメリカ政府に反対する政治文章、日米安保条約に反対する報道、それに日本共産党員の作家が書いた小説、例えば、小林多喜二の「蟹工船」、「セメント樽の中の手紙」などを多く編集された。そして、「朱門の酒肉が腐ったにもかかわらず、道上に屍あり」と言う旧社会の暗みを暴露し、搾取と反搾取、圧迫と反圧迫の階級闘争の歴史を反映したものでありであった。一九六六年から「プロレタリア文化大革命」が始まり、全国的に社会混乱の状態に陥ったため、一九七〇年までは各大学は教学活動を中止せざるをえなかった。が、一九七〇年十月に大連外国語学院と清華大学は中央政府の指示に従い学生を募集し、教学活動を再スタートした。一九六六年ごろ日本共産党が旧ソ連の共産党の問題をめぐって、中国共産党と是非の論争をしていたので日本共産党の教師を撤退した。再スタートした教学活動は、旧満州の大学、高校を卒業した中国人教師を中心に展開された。旧満州の大学、高校を卒業した教師たちは政治の罰を恐れて、編集した日本語教科書の内容は毛沢東の著作の訳文、「北京週刊」、「人民中国」などの雑誌の抜粋または引用ばかりであった。それに対して、一九八〇年に入ってから、改革開放政策を施されたおかげで、経済の高度成長ばかりでなく、各国と各分野にわたる交流が盛んになって、新しい視線で外国を見るチャンスが得られ、交流を行い、理解を深めた。文化、教育も交流の一環として外国の優れたものを取り入れ、使用するブームとなってきた。日本の日本語教科書をそのまま採用してきた。代表的なものには「新しい日本語」(大阪外国語大学の吉田弥寿夫編

集)、「日本語」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、(東京外国語大学編集)、「日本語初歩」(国際交流基金編集)、「日本語の基礎」Ⅰ、Ⅱ(AOTS編集)などがあった。このまま作者の許可を得ずに、その作品などを無断に印刷、使用し、世界的所有権を無視してきた。結局、外国からの批判をまねいてしまった。中国は、これから世界の国々と交流をしようと思えば、そのルールを守れなければならない。無断に他人の作品を印刷使用すれば、交流の妨げとなるのが分かり、一九九二年十月十五日にベルタ条約に、一九九二年十月三十日に万国著作権条約にサインして、それぞれの条約を守らなければならないことになった。大連外国語大学は作品の作者と連絡して、印刷、使用の許可を求め、そして、一緒に協力し合って、共同にテキストを編集し始めた。また、「大学日本語教育指導方針」、「国家課程基準・日本語課程基準」に基づいて、「大学日本語」1-4冊、「大学日本語会話」Ⅰ-4冊、「大学日本語視聴聴テキスト」Ⅰ-4冊、「日本語精読」上、下、「日本概況」、「日本歴史」などを編集した。

これらの日本語教材の編成を見て、一つ忘れられないことには、中国は共産党の指導下にある国で、リーダーたちはその権力を維持するために、メディアのラジオ、テレビ放送、新聞、雑誌だけでなく、学校の使用する教科書の内容を常に審査するということである。この国の法律及び政府令を違反する日本語教科書の印刷、出版、使用を禁止されることにより、日本語教科書の編集者は「政治」を常に頭に置かないと、日本語教科書の編集がとても難しくなると思っている。

4-2 日本語教材の作成のパターン

八十年代以前は日本語教材の内容を見て、それぞれのテキストの編集者の意図があって、ポイントが違うわけである。外国との交

流が少ない五十年代から七十年代までは、文法、翻訳を中心にしたものが多かった。八十年代に入って、外国との交流の需要に応じて、「聞く、話す」の会話を中心にしたものが多い。どちらも絶対だとは思えない。と言うのは、両方とも必要なので、一方も欠けないことである。両方を融合すれば適当だと思う。八十年代以前の日本語教材は次の通りである。

- ① 文章
- ② 訳文付きの語彙

例：

第25課

文型

1. ゆっくり 話したら、わかります。
2. わからなかったら、私にきいてください。
3. お金があったら、インドへ行きたいです。
4. 雨がふっても、行きます。
5. いくら調べても、わかりません。

会話

リー：どうやってこの機械を使いますか。

加藤：はじめにスイッチを入れて、次にこのボタンを押すと、動きます。

リー：簡単ですね。

加藤：ええ、しかし赤いランプがついたら、故障ですから、すぐにとめてください。

リー：故障の時、どうしたらいいですか。

加藤：テスターを使って、よく調べてください。それでもわからなかったら、私を呼びに来てください。

例文

1. 横浜へ行ったら、だれに会いたいですか。
—スラメットさんに会いたいです。
2. もしあした雨だったら、どうしますか。
—一日中うちにいます。
3. 日曜日私と一緒に行きませんか。
—暇だったら行きますが、忙しかったら行きません。
4. どこでお金をかえたらいいですか。
—あの銀行でかえたらいいです。

③ 文法の解釈

④ 文章の訳文

と言う形式に対して、八十年代に入って、日本の企業が後を立たずに大陸の各都市に進出して、工場、会社、事務所を持つようになり、「聞く、話す」ことのできる日本語人材が人気になった。というので、テキストの内容も形式も情勢に応じて変わった。いわゆる理論より実用性を重んじた。その形式について、「日本語基礎」(AOTS 編集)の一例を挙げてみよう。

5. 銀行はどう行ったらいいですか。
—この道をまっすぐ行ってください。
6. 本を借りたいですが、どうしたらいいですか。
—受付の人に聞いてください。
7. 安かったら、買いますか。
—はい、安かったら、買います。
—いいえ、安くても、買いません。
8. 雨がふっても、行きますか。
—はい、雨がふっても、行きます。
—いいえ、雨がふったら、行きません。

練習 A

1.

かう	かったら	かわない	かわなかったら
よむ		よまない	
ある		ない	
くる		こない	
いく		いかない	
おわる		おわらない	
つかれる		つかれない	
わすれる		わすれない	
わかる		わからない	
やすむ		やすまない	
こまる		こまらない	
あう		あわない	
する		しない	

2. 1)

ゆっくり 話した わかります。
雨がふった 行きません。
わからなかった ら 私にきいてください。
安かった 買います。
暇だった 遊びに来てください。

2)

どこで買って
だれにきいた ら、いいですか。
いつ行った

3)

雨がふって		行きます。
国へ帰って		忘れません。
高くて	も	買います。
雨で		行きます。
ひとりで		行きます。

4)

	勉強して		覚えません。
いくら	調べて	も、	わかりません。
	待って		来ません。

練習 B

1. 例：あなたが行ったら、私も行きます。
 - 1) (行かない)
 - 2) (買う)
 - 3) (買わない)
 - 4) (帰る)
 - 5) (帰らない)
 - 6) (歌う)
 - 7) (歌わない)
2. 例：安い、買います—安かったら、かいます。
 - 1) いい、買います—
 - 2) 悪い、買いません—
 - 3) 忙しい、行きません—
 - 4) おもしろい、見ます—
 - 5) 遅い、タクシーで行きます—
3. 例：雨、行きません—雨だったら、行きません。
 - 1) いい天気、行きます—
 - 2) 日本語、わかります—
 - 3) 暇、遊びに来てください—
 - 4) 病気、会社を休みます—
 - 5) あした、行きます—
4. 例：お金がなかったら、どうしますか。
 - 1) (日本人と一緒に行きません)
 - 2) (日本語がわかりません)
 - 3) (タノムさんが来ません)
 - 4) (9時の電車に乗ることができません)
 - 5) (時間がありません)

5. 例：東京へ行きます、私の友だちに会います
—東京へ行ったら、私の友だちに会ってください。

- 1) 時間があります、手紙を書きます—
 - 2) バスがありません、歩きます—
 - 3) 疲れます、少し休みます—
 - 4) 本を借ります、あとで返します—
 - 5) 元気になります、また来ます—
 - 6) わかりません、質問します—
6. 例：どこでお金をかえますか。

—どこでお金をかえたらいいですか。

- 1) どこで辞書を買いますか。—
 - 2) だれにききますか。—
 - 3) 故障の時、どうしますか。—
 - 4) どこに電話をかけますか。—
 - 5) いつあなたのうちへ行きますか。—
 - 6) きょう何をしますか。—
7. 例：いくら勉強しても、わかりません。

- 1) (読む) 4) (調べる)
- 2) (聞く) 5) (習う)
- 3) (考える) 6) (話す)

8. 例1：安い、買いません—安くても、買いません。

例2：雨、行きます—雨でも、行きます。

- 1) 高い、買います—
- 2) 暇、手伝いません—
- 3) きらい、食べます—
- 4) 休み、働きます—
- 5) 違い、歩いて行きます—
- 6) 言葉は同じです、国は違います—

9. 例：雨がふります、行きます

—雨がふっても、行きます。

- 1) 今覚えます、すぐ忘れませ—
- 2) お金を借ります、ぜんぜん返しません—
- 3) 病気になります、酒をやめませ—
- 4) いくら呼びます、来ませ—
- 5) いくら修理します、よくなりませ—
- 6) いくら押します、動きませ—

問題

- I. 例：ゆっくり話したら、わかります。
1. タクシーが来なかったら、_____。
 2. _____ら、私のうちへ来てください。
 3. 皆さんに会ったら、_____。
 4. 国から手紙が来たら、_____。
 5. だれにきいても、_____。
- II. 例：(何) を食べたらいいですか。
1. () でお金をかえたらいいですか。
 2. わからない時、() にきいたらいいですか。
 3. 旅行に () を持って行ったらいいですか。
 4. () 時に電話をかけたらいいですか。
 5. 故障の時、() したらいいですか。
- III. 1. 日曜日にいいお天気だったら、どこへ行きますか。
2. 毎朝何時に教室へ来たらいいですか。
 3. 疲れたら、どうしますか。
 4. お金がなかったら、どうしますか。
 5. 何で東京へ行ったら、一番速いですか。
 6. もし百万円あったら、何を買いますか。
 7. おなかが痛い時、どうしたらいいですか。
 8. 毎晩どの位勉強したら、日本語がじょうずになりますか。
 9. 雨がふっても、会社へ行きますか。
 10. 少し頭が痛くても、勉強しますか。

以上第 25 課は「日本語基礎」II (AOTS 編集) を引用した¹¹⁾。

このように勉強を進めて、学生の聞く能力と話す能力を高めようと頑張ってきた。しかし、その日本語教育に従事している教師は同じ教育水準を持つものではないので、一つの語彙、一つの文法現象に対して、理解の度合いがあって、教育差が出てくる。教師の教える基準、範囲、程度、進みぐあいなどについて、また研究のポイントとなっている。この問題を解決するために、中日両国の日本語教育者、研究者は一堂に会して、教える基準を設定して、「標準日本語」初級 1、2、中級 1、2、を編成した。そのなかの一つを例にして見よう。

例

第 1 課 こんにちは

(1)

こんにちは、私は王と言います。去年の 6 月に、留学生として日本にやって来ました。

初めのうちは、言葉や習慣の違いから失敗ばかりしていましたが、最近はこちらの生活にもだいぶ慣れてきました。大学へ通っているうちに、何でも気軽に話し合える友達もできました。

鈴木先生は私が通っている大学の先生です。ご専門は言語学で、私たち留学生に日本語を教

えていらっしゃいます。私が日本語についてわからないことを聞きに行くと、いつも丁寧に教えてくださいます。勉強以外のこともいろいろと相談に乗ってくださいます。

先生は、現代の中国に興味がおありになるそうで、ときどき中国のことをお尋ねになります。そんな時、私は喜んで中国のことを説明して差し上げます。

私は、これから、自分が知りたいことや興味があることについて、いろいろな本を読んでどんどん勉強していこうと思っています。日本の自然や社会・歴史・文化、それに科学技術など、知りたいと思うことがいっぱいあります。小説や詩のような文学作品も日本語で読んでみたいと思っています。

旅行の計画もあります。今度の夏休みに、日本の各地を訪れようと思っています。夏休みが終わるまでに、できるだけいろいろな所に行って、見聞を広めるつもりです。

(2)

王：先生。このごろ私は、日本の文化や歴史の勉強がとてもおもしろくなってきました。

鈴木：そうですか。それなら、ちょうどいい本がありますよ。これは、日本の文化をわかりやすく解説したものです。これを貸してあげましょう。

王：ありがとうございます。では、読ませていただきます。いつごろまでお借りしてよろしいでしょうか。

鈴木：来月までいいですよ。ぜひ読んで感想を聞かせてください。

王：では、遠慮なくお借りします。ちょうど、これから、本をどんどん読んで勉強しようと思っていたところなんです。

鈴木：いいですね。やる気を持つのがいちばん大切ですよ。がんばってください。

词汇 I

初め (はじめ) [名]	起初、当初
違い (ちがい) [名]	不同
失敗 (しっぱい) [名]	出差错、失败
気軽だ (きがるだ) [形动]	无拘束、爽快
言語学 [名]	语言学
勉強以外 [名]	除了学习以外
相談に乗る [惯用]	帮人斟酌
現代 [名]	现代
尋ねる [动 2]	询问
そんな [连体]	那种、那样
時 [名]	时、时候
どんどん [副]	接连不断
それに [接]	还有
いっぱい [副]	满、很多
詩 [名]	诗
作品 [名]	作品
計画 [名]	计划

各地〔名〕	各地
訪れる〔动2〕	访问
できるだけ〔词组〕	尽量、尽可能
見聞〔名〕	见闻
広める〔动2〕	扩大
見聞を広める〔惯用〕	长见识、扩大眼界
このごろ〔名〕	最近
それなら〔词组〕	那么
解説する〔动3〕	解说
遠慮(えんりょ)〔名〕	客气
やる気(やるき)〔名〕	干劲

～として・・・

・・・うちに／うちは、・・・

～ばかり

～学(がく)

～以外(いがい)

～のような

・・・までに／まで・・・

・・・(さ)せてもらう／(さ)せていただく

・・・(さ)せてください

语法解说和练习

1. ～として・・・

留学生として日本にやってきました。

“名词＋として”是对作为句中的主题或宾语的人或事物的某一方面着重叙述时使用的。省略了“名词＋として”、句子也可成立。

私は留学生として日本にやってきました。

(私は日本にやってきました。私＝留学生)

私は王さんを先輩として尊敬しています。

(私は王さんを尊敬しています。王さん＝私の先輩)

あの人は新聞記者として有名です。

(あの人は有名です。あの人＝新聞記者)

此外、还可用“名词＋としての”修饰名词、用“名词＋としては”表示主题或对比。采取这类用法的时候、限定的意义较强、用时必须注意。

留学生としての王さんは優秀です。(王さん＝留学生)

这个例句有可能表示作为留学生的消亡在其他方面并非一定也是优秀的意思。

私は王さんを先輩としては尊敬しています。(王さん＝私の先輩)

这个例句表示小王作为前辈是受到尊敬的、但在其他方面并不尊敬小王。

但是以下例句则又有不同。

私としては山田さんの意見に賛成です。

山田さんとしての意見を聞かせてください（山田さん＝意見）

这里是分别对“私は山田さんの意見に賛成です”“山田さんの意見を聞かせてください”中的“私は”和“山田さんの”给予强调、表示并非别人而是这两个人的意见。

练习 仿照例句造句

例 石油を使っています。石油＝燃料

石油を燃料として使っています、

(1) 姉は働いています。姉＝外交官

(2) 富士山は有名です。富士山＝美しい山

2. …うちに／うちは、…

大学へ通っているうちに、友達もできました。
初めのうちは、失敗ばかりしていました。

在“うち”前面带有表示状态或时间的词时表示某一期间。“…うちに”后面是在这一期间内发生的事情。

“うちに”的前面用下列词语

a、动词、形容词

动词多用“…ている”的形式。形容词则用基本形。

勉強しているうちに、友達がたくさんできました。

若いうちに、いろいろな体験をしたほうがいい。

b、形容动词词干+な+うちに

暇なうちに、遊びに来てください。

桜がきれいなうちに、見に行きましょう

c、名词+の+うちに

这里使用表示某一期间的“夏休み”“朝”等类名词或者是“学生”“子供”等表示一定时期的身分的名词。

夏休みのうちに、この本を読んでしまいたいと思っています。

午後からは忙しくなるので、今のうちに準備をしておきましょう。

练习 仿照例句变换句子说法。

例： 大学へ通う。友達ができました。

大学へ通っているうちに、友達ができました。

(1) 資料を調べる。いろいろなことがわかってきました。

(2) テレビを見る。眠ってしまいました。

“…うちは”后面是在这一期间内持续的状态

風が吹いているうちは、外に出ることができません。

朝のうちはまだ涼しいですが、11時を過ぎると暑くなります。

练习 仿照例句造句

例： 初め 失敗が多い 少ない

初めのうちは失敗が多かったんですが、だんだん少なくなりました。

(1) 朝 曇っている 晴れてくる

(2) 若い 元気に 疲れやすくなってくる

3. …までに／まで…

夏休みが終わるまでに、見聞を広めるつもりです。
いつごろまでお借りしてよろしいでしょうか。

“まで”在前面带有表示时间的词语时表示期限。“…までに”后面是在这一期限以前发生的事情。

3時までに帰ってきてください。

夏休みが終わるまでに、本を3冊読みました。

练习 仿照例句变换句子说法。

例： 夏休みが終わる。レポートを書いてしまう。

夏休みが終わるまでに、レポートを書いてしまおうと思っています。

(1) 中国に帰る。秋葉原へ行く。

(2) 田中さんが遊びに来る。部屋を片付けておく。

“まで”后面是在这一期限以前持续的状态、动作。

今日は、5時まで図書館にいます。

今朝は、10時まで寝ていました。

“まで”和“までに”的区别则是到这个时间点为止动作或状态持续存在、还是在此之前的某一时间点上发生了某事。

3時まで手紙を書きました。

(写信一直写到三点钟)

3時までに手紙を書きました。

(三点钟以前写完了信)

练习 仿照例句造句。

5時 本を読む

5時まで本を読んでいたました。

(1) 10時 絵をかく

(2) 彼が来る 待つ

4. …(さ)せてもらう／(さ)せていただく

では、読ませていただきます。

表示使役的动词、例如“聞かせる”“休ませる”等、后面接“てもらう／ていただく”的形式来表达说话人希望得到听话人认可的意思。

仕事を休ませてもらいました。

いちばん最初に歌わせていただきました。

练习 仿照例句变换句子说法。

例 わたしは本を読みました。

私は本を読ませてもらいました。

わたしは本を読ませていただきました。

(1) わたしは早く帰りました。

(2) 昨日は田中さんの家に泊まりました。

5. . . . (さ) せてください

ぜひ読んで、感想を聞かせてください。

表示使役の动词后加“てください”的形式来表达请求。表示的是说话人想要办某件事而请听话人加以允许的意思。

疲れたから少し休ませてください。

約束がありますので、今日はもう帰らせてください。

この本を読んだら感想を聞かせてください。

“聞かせてください”的意思和“話してください”近似。

练习 仿照例句变换句子说法。

例：音楽を聞きたいです。

音楽を聞かせてください。

① 資料を調べたいです。

② 電話を使いたいです。

词语用法说明

1、やってきました

“やってきます（やって来る）”在整体上和“来ます（来る）”的意思大体相同、即表示人或事物向说话人这一方靠近过来。与“来る”相比较、“やって来る”还含有涉及到这一动作的过程的意思。一般不用于命令或劝诱。

スミスさんが手を振りながら、やってきました。

2、言葉や習慣の違いから

“から”的主要作用是表示起点、但直接与名词或句子相接、也可表示原因。

小さなことからけんかになった。

中国に対する興味から中国語を勉強し始めた。

3、～ばかり

和“だけ”同样、表示限定。但“だけ”表示严格排除其他事物的意思、“ばかり”带有被限定的事情反复出现的意思。

失敗ばかりしていました。

あの人は、いつも怒ってばかりいる。

4、相談に乗る

了解到对方所面临的问题、并且和对方一起就这个问题的解决办法进行商谈的意思。

ちょっと相談に乗ってください。

5、興味がある

和“趣味を持つ”的用法容易搞错。“趣味”系指一种持续的乐趣、作为某种娱乐的爱好。与此相比、“興味”则指的是由某种契机产生了好奇心而对某种事物产生的关心。总之、可以说“興味が湧く、興味を感じる”但“趣味”就不能这么用。

歴史に興味があります。

6、・・・で差し上げます。

初级Ⅱ册 38 课学过“・・・てあげます”的用法、“・・・で差し上げます”是它的敬语用法。表示的敬意程度较高、只限于对方是自己的老师或权威人士以及与这种尊敬程度相当的人时才使用。但是、“・・・てあげる／て差し上げる”这种用法本身既有向对方施恩惠的意思、也带有强加于人的味道。因此、一般喜欢用“お（御）・・・いたします”。

お客様を玄関まで案内して差し上げました。

お客様を玄関まで御案内いたしました。

鞆を忘れて帰られたので、届けて差し上げました。

鞆を忘れて帰られたので、お届けいたしました。

7、～のような

初级Ⅱ册第 46 课学过的“～のような”表示比喻、本课所学的是表示以某事物为例的用法。犬や猫のような動物は嫌いです。

上海や東京のような大きい都会は住みにくい。

8、「訪れる」と「訪問する」

“訪れる”和“訪問する”的意思都相当于汉语的“访问”。宾语后续的助词是“を”。宾语可表示场所或人、但以场所居多。

中国の代表団が、日本を訪れた。

中国の代表団が、日本を訪問した。

“訪れる”和“訪問する”的区别是：前者可由表示季节或某种好时机的词作主语、此时宾语多不出现、如果出现、宾语后续的助词是“に”。

冬が訪れた。

彼に良い機会が訪れた。

“訪問する”的“訪問”可构成以下复合词：

訪問客 訪問着 訪問者 訪問中

9、見聞を広める

增加各种事物的见闻、扩大知识的意思、多用于书面语。

10、それなら

“それ”表示前句的判断或说法。后据则以前句为前提来表示说话人的判断或感想。意思相当于汉语的“那么”。

傘がないんですか。それなら貸してあげましょう。

11、貸す／借りる

汉语只有一个动词“借”表示的动作、日语则要用“貸す／借りる”两个不同的动词来表示。

“貸す／借りる”分别用于下列句型：

甲が 乙に ～を 貸す (甲借给乙～)

甲が 乙に／から ～を 借りる (甲向乙借～)

站在甲的立场上看上述句型、“貸す”是“借出”、“借りる”是“借入”。

鈴木先生は、王さんに本を貸しました。

=王さんは鈴木先生に本を借りました。

不过以上使用“貸す”的句型中的乙、不能代入“わたし”。如要代入必须把“貸す”改为“貸してくれる”。

張さんはわたしに辞書を貸してくれました。

鈴木先生は私に本を貸してくださいました。

由于第二句说的是老师借给了书、所以必须把“貸してくれる”改换为“貸してくださる”这样的敬语形式。用了“貸す”的句型中如果甲指的是“私”、那么无论是用“貸す”或是“貸してあげる”均可。

私は王さんに本を貸しました。(貸して上げました)

私は先生に本をお貸しました。(貸して差し上げました)

在第二个例句中、因为把书借给的对方是老师、所以必须把“貸す”和“貸してあげる”分别改换为“お貸しする”和“貸して差し上げる”这种自谦语的形式。

12、・・・て(も)よろしいでしょうか

初级I册第16课学过表示许可的句型“・・・てもいい”“・・・てもいいですか”和这个用法基本相同。“よろしい”比“いい”郑重些、“でしょうか”要比“ですか”带有委婉的语感。基本的形式应有助词“も”、但可以省略。

帰ってよろしいでしょうか。

13、やる気

对某事持一种积极肯干的态度就是“やる気”、下面举一些“やる気”的惯用说法：

やる気がある (有心想干)

やる気がない (无意干)

やる気を持つ (保持干劲)

やる気をなくす (失去干劲)

やる気がなくなる (失去干劲)

14、与文化艺术有关的词

芸術 文学 詩 歌 物語 小説 評論

美術 絵画 漫画 写真 音楽 演奏

鑑賞 演劇 芝居 映画 展覧会 コンサート

劇場 映画館 美術館 博物館

词汇 II

先輩 (せんぱい)	[名]	前辈、比自己先到工作岗位的人
優秀だ (ゆうしゅうだ)	[形動]	优秀
賛成 (さんせい)	[名]	赞成
石油 (せきゆ)	[名]	石油
燃料 (ねんりょう)	[名]	燃料
資料 (しりょう)	[名]	资料
過ぎる (すぎる)	[動 2]	过
元気だ (げんきだ)	[形動]	精神饱满
泊まる (とまる)	[動 1]	投宿、住
振る (ふる)	[動 1]	挥动
けんか	[名]	吵架
湧く (わく)	[動 1]	涌出
動物 (どうぶつ)	[名]	动物
訪問着 (ほうもんぎ)	[名]	会客和服
訪問中 (ほうもんちゅう)	[名]	正在访问中
物語 (ものがたり)	[名]	故事
評論 (ひょうろん)	[名]	评论
美術 (びじゅつ)	[名]	美术
漫画 (まんが)	[名]	漫画
演奏 (えんそう)	[名]	演奏
展览会 (てんらんかい)	[名]	展览会
コンサート	[名]	音乐会
博物館 (はくぶつかん)	[名]	博物馆
鑑賞 (かんしょう)	[名]	鉴赏

以上第 1 課は「標準日本語 (中級)」人民教育出版社編を引用した¹²⁾。

このように問題点を踏まえ、学習者それぞれが満足感をえられ、日本語学習を促進される日本語教材の作成を試みることにした。また教師にとっても円滑に授業が進められ、どの教師が使っても同じ効果が得られるように、教材の使用目的や手順を明確にすることを念頭に作成を試みたものである。勿論、これは完全なものではないと思う。現在、大学で日本語教師をつとめているスタッフは、卒業大学や就職年数が違い、個人的な努力度合も頭脳の物事の理解差もあるので、授業を進

める中で、不一致の所が出る可能性があると思う。第一歩として、協力し合って、編成した日本語のテキストを評価すべきである。

4-3 試験用の日本語教材

一九八〇年代に入って大学においては新しい教育方針により、複合型外国語人材養成の試みをしている。社会においては需要に間に合えるように、各種学校を設立して日本語教育を施している。まるで雨上がり後の竹の子のように日本語教育は盛んになりつつあ

る。特に、一九八四年から日本国際交流基金は中国の大連、上海、北京、広州の4ヶ所で日本語学習の在校生を相手に日本語能力試験を実施した。そして、年に一回（毎年十二月の初めての日曜日）中国全土において、日本語学習の在校生に限らず、社会人までこの日本語能力試験を受けるようになってきている。その後追い風に、一九九〇年から各大学は社会人に対して「各種職称資格日本語試験」、一九九二年からの「国家教育者の資格日本語試験」（WSKと略称）、二〇〇〇年からの大学の日本語学習の在校生の「四級と八級の日本語試験」（大学の二年生は四級日本語試験を、三年生は八級日本語試験を受けることになる）、それから、二〇〇二年からの日本の職業日本語試験（年に2回）を行うということである。これらの多くの日本語試験を受ける目的は、その日本語能力を証明する能力資格を取るためである。中国も日本と同じように、八十年代から学歴社会に入り、各役所、各企業、それに民营企业（自営業）は人員を募集する場合、まず、応募者に大学卒業証明書またはこれに相当する証明書を提出してもらうことになっている。その卒業証明書一つあれば、希望するポストにちかづける夢を持つてると言われている。しかし、各役所、各企業では、その卒業生を扱ってみて、思う通りに行かないことを痛感させられた。要するに、卒業証明書を持っている者は必ずしも希望する者ではないと分かったわけである。この事情を反省して、日本の企業、会社、事務所は人員を募集する場合、日本国際交流基金の実施した日本語能力試験合格の一級資格証と二級資格証を提出させることになっている¹³⁾。

こうして、日本語能力試験の資格証が就職の場合、昇進の場合、日本留学の場合、いずれ必要なので、また日本語能力試験を受けるために、新しい日本語教育の模索が始まっ

た。この日本語能力試験の日本語教育の流れに乗り、大学内、社会人の学習班などで、日本語能力試験の勉強ブームとなっている。大連では2005年度に12191人、2006年度に15265人（<http://www.jees.or.jp/jlpt>）ほどの受験者はこの日本語の能力試験を受けると言われている。勿論、この中にはほかの日本語試験は含まれていない。この莫大なテスト市場にどんな日本語教材を使用するか、また、日本語教育者、研究者は考えなければならない課題の一つである。

この日本語能力試験は四つの項目（読解、聴解、語彙、文法）で行われている。日本語教育もこの試験内容に合わせて教材編成を行って、やっている。これらの日本語試験のための日本語教材が多いので、一一挙げないが、ほとんどが日本から輸入した日本語能力試験一級、2級対策模擬テストというものである。一つ一つの問題点について、解答を合わせて授業を進めてきた。それぞれの問題点の解釈は教師により違うので、受験勉強の学生は悩むばかりである。この状況に対して、どうすれば良いか、日本語句型教育をすすめる教育が現れた。そして（日本語能力試験1、2級対応）日本語表現文型500（アルク）を紹介された。が、その言葉表現についての理解が違うところがあるので、また解決の道を探ることになっている。例えば、逆接条件表現をあげてみよう。

① たとえ～ても

たとえ雪が降っても、仕事は休まない。

② ～たところで

今から走って行ったところで、間に合うはすがない。

③ ～としても、～にしても

仮に私が病気で倒れたとしても、これだけの蓄えがあれば、大丈夫だろう。

④ ～にしる、～にせよ

どんな事をするにしろ、十分な計画と準備が必要だ。

⑤ ～といえども

どんな悪人といえども、悪い事をした後いい気分はしないと思う。

⑥ ～であれ、～でも

命令されたことが何であれ、きちんと最後までやらなければならない。

⑦ ～うが(と) / ～ようが(と)

誰が何と言おうが、私は決心を曲げないつもりだ。

⑧ ～うが～まいが / ～ようが～まいが / ～うと～まいと / ～ようと～まいと

あの人が来ようが来るまいが、私には関係ないことだ。

⑨ ～にもかかわらず

あれだけ多くの人が居たにもかかわらず、犯人の顔を見た人は一人も居なかった。

⑩ ～とはいえ

梅雨が明けたとはいえ、朝夕は涼しくて少し寒いくらいだ。

⑪ ～ながらも

今月引越したばかりの新しい事務所は狭いながらも駅に近いので、満足している。

⑫ ～ながら

一郎というのは、子供ながら将棋では大人も勝てないほど強い。

⑬ ～ものの

頭では分かっているものの、実際に使い方を言葉で説明するのは難しい。

⑭ ～もののを

先輩からあんなに親切に言ってくれたものを、彼はどうして断るだろう。

⑮ ～つつ、～つつも

悪いと知りつつ、友達の前宿題の答えを書いてそのまま出してしまった。

⑯ ～くせに

あの人はお金もないくせに、旅行ばかりし

ている。

⑰ ～のに

病気にかかっているのに、また残業をしている。

⑱ ～からといって

大学を出たからといって、必ずしも教養があるとは言えない。

⑲ ～ところを

あの人は疲れているところを、私のためにいろいろ調べてくれた。

⑳ ～と思いきや

父は頑固だから兄の結婚には反対するかと思いきや、何も言わずに賛成した¹⁴⁾。

以上のように、こんな多くの逆接条件表現をまとめて説明することが大変難しいことである。これは日本人の教師にとって難しいとすれば、中国人の教師として説明するのがもっと難しいはずだと思う。「日本語表現文型」は言葉構造づくりで、日本語表現の役割を果たしている本であり、多く使用されている。しかし、分かりやすい説明や正しい理解力を持てなければ、学生にきちんとした解釈できない。これらの問題を抱えて今後研究するだろう。それから、1級資格を取った受験者は「聞く・話す」能力が低下していることを無視できない。なぜかと研究した結果、一部分の受験者は型だけの日本語表現をそのまま理解せずに覚えていると言われている。従って、一級資格を取ったからといって、必ずしも希望する人材ではない場合も少なくない。大学卒業証明書であろうが1級資格証明証であろうが、本人の実力を確認した上で、募集するではないかと思う。それに、大学内部使用の日本語教材と試験用の日本語教材を如何に融合して使うか、如何に「聞く、話す、読む、書く、訳す」できる人材を養成するか、そして如何に1級資格を取れるかを今後考えなければならぬ課題の一つである。

5. おわりに

中国の大学における日本語教育・教材編成に関する問題点を考察してみたが、一番大きな問題といえば、教員不足である。新しい教員を募集しているが経験不足のため、満足教育できない。特に新しい学科の場合、その学科の研究と教育従事できる教員が足りない。もう一つは、日本語教師の研究活動も不足している。数多くの教師は学内の日本語専攻と非専攻の講義、そして社会人対象のアルバイト講義に迫られて、研究活動を行う時間が少ない。確かに外国との研究交流が増えつつあるがチャンスが少ないのも事実である。

それから、教育手段を改善することも問題である。また教育用付属設備の不足も経費上の問題もあるが、教授法の研究と改善を怠っていることは設備と教員の両方に直接関係している。

また、日本語教育のどこに重点を置くか、教材作成を試み手法としてどんな教材を編成するか、項目として今後研究していきたいと思う。

変わるべきものと変わらざるべきものがあるが、競争が厳しい社会でより高い目標を目指して、正しい日本語教育と立派な日本語教材編成は日本語教育者と日本語学習者にとって望ましいものである。

【注】

- 1)「総合的日本語教育を求めて」の「21世紀の日本語教育研究への期待」国書刊行会 2004年3月
「高等院校日本語専攻高年級教学大綱」教育部高等学校外国語専攻教学指導委員会日本語組編 2003年3月
- 2)1996年「日本語教育と日本文化、国際シンポジウム」資料 1996年8月
- 3)「総合的日本語教育を求めて」の「中国の大学

における日本語専門教育」国書刊行会 2004年3月

- 4)1997年「日本語教育と日本文化、国際シンポジウム」資料 1997年8月
- 5)2000年「日本語教育と日本文化、国際シンポジウム」資料 2000年8月
- 6)「高等院校日本語専攻高年級教学大綱」教育部高等学校外国語専攻教学指導委員会日本語組編 2003年3月
- 7)「総合的日本語教育を求めて」の「中国の大学における日本語専門教育」国書刊行会 2004年3月
- 8)2002年「日本語教育と日本文化、国際シンポジウム」資料 2002年8月
- 9)前掲書
- 10)2004年「日本語教育と日本文化、国際シンポジウム」資料 2004年8月
- 11)「日本語基礎」II AOTS 編集 2000年
- 12)「標準日本語(中級)」人民教育出版社編 2005年2月
- 13)2006年「日本語教育と日本文化、国際シンポジウム」資料 2006年8月
- 14)「どんな時どう使う日本語表現文型500(中、上級)」アルク編 2004年6月

参考文献

- 「高等院校日本語専攻高年級教学大綱」
教育部高等学校外国語専攻教学指導委員会日本語組編 2003年3月
- 「大学日本語教学大綱」
高等教育出版社編 2000年10月
- 「わが国の教育水準」文部省編 昭和65年
- 「高校日本語専攻八級試験大綱」
上海外国語教育出版社編 2002年2月
- 「全国外国語水準(wsk)大綱」
高等教育出版社編 2003年3月
- 「大連外国語学院教学大綱」内部資料 1996年
- 「どんな時どう使う日本語表現文型500(中、上級)」
アルク編 2004年6月
- 「標準日本語(中級)」
人民教育出版社編 2005年2月
- 等

Education of Japanese Language in China: The Curriculum and Application of Teaching Materials

Li Pei JIAN

Dalian University of Foreign Languages

Abstract

In China, education of foreign languages has been markedly changing from the 20th to the present, which was considered to result from the economical development. Language is prerequisite for economical development, connecting different countries as well as people from different regions. Mutual interchange among countries requires communication, and these conditions have resulted in a drastic change in language education in China.

The present article introduces the education of Japanese language in China, mentioning the curriculum and application of teaching materials. It also refers the transition of the education.